

## 課題対応取組み報告書

【共通】

|     |               |
|-----|---------------|
| 名称  | 住吉区地域包括支援センター |
| 提出日 | R6 年 6 月 3 日  |

|   |  |   |
|---|--|---|
| カテゴリー<br>(※主なものをひとつチェック)                  | <input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等<br><input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援<br><input type="checkbox"/> その他 ( )   | <input type="checkbox"/> 社会資源の創設 (居場所づくり等)<br><input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等 |
| 活動テーマ                                     | 気軽に相談でき安心して住みやすい地域づくり<br>地域住民と関係機関が連携できる新たなアウトリーチ  |   |
| 地域ケア会議から<br>見えてきた課題                       | ・自立支援検討会議では、長引くコロナ禍でフレイルが課題になっており、特に栄養や口腔ケアが課題として挙げられた。<br>・地域ケア会議では、金銭管理のトラブルから成年後見制度を必要とする高齢者が増加しており、市長申立てだけでなく、本人申立ても見られるようになった。認知症や精神疾患に対する理解不足から地域で孤立しているケースも発生していた。  |   |
| 対象  | 地域住民、地域関係者   |   |
| 地域特性                                      | ・遠里小野地域は、ネットワーク委員会とボランティアによる見守り活動が充実し、毎月定例会議も開催している。<br>・山之内地域は、毎月定例で見守りボランティア会議を開催している。独居高齢者の割合が圏域で一番多い。<br>・苅田南地域は民生委員による見守り活動が古くから行われているが、特に集合住宅の高齢化が課題となっている。<br>・依羅地域は、古い町並みとマンションが立ち並ぶ地域に二分され、賃貸住宅では町会未加入世帯も多い。  |   |
| 活動目標                                      | ・出張相談等を通じて、気軽に相談できる場づくりやセンターの周知を行う。<br>・既存の地縁組織に限らず地域活動の情報を周知しながら、ケアマネジャーにも情報を提供し、地域と専門職が顔の見える関係を作っていく。  |   |
| 活動内容<br>(具体的取組み)                          | ・歯科医師に協力いただき、オーラルフレイルについての勉強会を行い、フレイル予防の意識啓発に努めた。<br>・町会に加入していない方へのアプローチも含めて、郵便局や薬局、圏域のデイサービスに作成した包括のチラシを配布し周知活動に努めた。<br>・薬局から患者や家族の話や家族の話を聞く窓口だと思っているがどう伝えて行けばいいかという意見があったため、薬局での出張相談会を実施した。<br>・勉強会や出張相談会などを通じて区民に地域情報の提供を行うとともに、ケアマネジャー向けにも社会資源一覧と地域情報の提供を行い、地域活動への理解や参加促進を図った。<br>・地域とケアマネ合同での事例検討会を実施し、地域関係者と専門職の顔の見える関係作りと、互いに連携することの重要性を学ぶ機会を設けた。 |   |
| 成果<br>(根拠となる資料等があれば添付すること)                | ・遠里小野、苅田南、山之内地域では、栄養やオーラルフレイルについて勉強会を実施、参加者からは介護予防に対する認識が深まったとの声が聞けた。依羅地域では薬局での出張相談会を実施し、地域の高齢者の生の声が聞く機会ができた。<br>・依羅地域では、地域関係者と専門職が同じ視点で支援できるように、民生委員とケアマネジャー、ヘルパー合同で弁護士を講師に招き勉強会を開催した。虐待対応について勉強になったとの意見を聞くことができた。<br>・郵便局や薬局に包括のチラシを配布することで周知強化を行い、金融機関や薬局から相談が増えた。<br>・ケアマネジャーの勉強会等で社会資源一覧と地域情報を提供し、地域活動への理解を深められた。                                   |   |
| 今後の課題                                     | ・地域での介護予防教室は参加者が限定されてしまう傾向があるので、周知方法を検討する必要がある。<br>・今後も困難事例の早期発見に向け、町会に加入されていない方へのアプローチも含め、出張相談の場を増やしていく。(スーパーや薬局、神社)<br>・地域とケアマネジャー合同での勉強会や交流会の実施、地域の方には地域ケア会議にも参加していただき、地域関係者と専門職の顔の見える関係を構築していく。<br>・地域関係者との良い関係性が保てるように地域の各種会議や活動へ参加するとともに、地域の情報収集に努める。また、ケアマネジャーには地域情報の提供を行い引き続き地域活動への理解を深めていき、インフォーマルサービスの活用を促していく。                                |   |
| 区地域包括支援センター<br>運営協議会開催日                   | 令和 6年 7月 18日 (木)   |   |
| 専門性等の該当<br>(※該当個数は問わない)                   | <input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性・拡張性 <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input type="checkbox"/> 独自性   |   |
| 評価できる項目 (特性)<br>についてのコメント                 | ・高齢者が日常利用している金融機関や薬局から相談が増えることは、包括の活動が着実に認められている成果だと評価できる。<br>・相談は包括やケアマネジャーだけでなく、郵便局や薬局など高齢者の身近な人が専門職につなげるという顔の見える関係づくりは勉強会や交流会の開催によるものだと思う。<br>・地域での介護予防教室などいつも同じメンバーということがよくあるが、周知方法の工夫などで改善できる方法を考えてほしい。<br>・歯科医師会はオーラルフレイルについて、地域住民が入り口として興味を持ってもらえるなら今後も協力していきたい。  |   |
| * 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。 |  |   |